

「残されたあなたの人生、諦めなくて良い」

ヨハネによる福音書

8章 1節～11節

説 教

市川和恵 牧師

晩年の義母市川テルの言動を通し、「長生きは恵みだろうか？」と思うことができました。

本日の御言葉は、神殿の境内に主が入ってこられた時の事。朝早く人々がイエスさまのもとに集まってきました。イエスさまが地べたに座り教え始められた時、パリサイ人や律法学者たちに姦淫の場で捕らえられた女が引っ張り出され、立たせられ、見世物にされた場面です。

旧約聖書は、姦淫の罪に対して大変厳しいのです。御言葉は、姦淫した男も女も死刑に処せられる、と記しています(レビ記20章10節など)。しかしこの場面では、姦淫した場でつかまされた女だけが引っ張り出されています。引っ張ってきた人々の関心は、イエスさまにあったよう。人気があったイエスさまを貶めたいとの思いが募ってイエスさまを試しているのです。

姦淫の女を中に立たせ主にこう言いました。「先生、この女は姦淫の場でつかまえられました。モーセは律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じましたが、あなたはどう思いますか。(4節) 貶めたいという一心です。狡猾なサタンの試みの場面の如くです。主のお答えが、もし、この女を赦せと言われれば、イエスは律法を平気で破っていると人々が見るだろう、そうすると人気はなくなる。一方、赦してはいけない、とお答えになると、この人はこんな弱い人を殺せという、何と冷たい人だ、と人々が思うだろう、と思った。どちらの答えでも、イエスを貶める事が出来ると思った上での質問です。鵜の目鷹の目でイエスさまを見ていた人々。しかし、イエスさまは、いっこうにお答えにならない。

「しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた(6節)。長く続く沈黙。なぜ黙っておられるのだろうか、といらいらして人々は待っていた。私たちも神さまの長い沈黙が続く時、見放されたような思いになることがあります。主は、ここで彼らを見放されたのでしょうか？

しかし、彼らが、あまりにもしつこく問うたので『彼らが問い続けるので、イエスは身を起して彼らに言われた、「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」。そしてまた身をかがめて、地面に物を書きつけられた。』(7～8節)

あなたたちの中で罪を犯した事がない者はいるのか？いるなら、その人が、まず、この女に石を投げるが良い、と言われた。厳しく問いただすのではなく、地面にまた何かを書き続けられた。沈黙の中で待たれているのです。意味深い場面です。見放されたのではなく待たれていま

した。

すると、「これを聞くと、彼らは年寄りから始めて、ひとりびひとり出て行き、ついに、イエスだけになり、女は中にいたまま残された(9節) 誰も石を投げつける者がいなかただけではありません。貶めようとした者たちさえ去ったので。しかも、まず年寄りから去り始めた。

歳をとるということは、色々な経験を重ねたという事。その経験の中には、人に話せない罪深い事もあると思うのです。だから、赦されてきた恵みに気づくのも早かったのでしょうか。誰よりも、この罪深い者を神さまが赦して下さった事が魂に届いたのです。主は、この時、十字架上でまなざしを人々に向けられ、地面に落とされたのではないのでしょうか。苦しみの只中で言われた言葉「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです(ルカによる福音書23章34節)、と同様の言葉とまなざしを向けて人々を執り成し下さっていたのではないのでしょうか。その言葉・まなざしが「年寄りから」始まって届いたのでしょうか。歳をとる恵みですね。

説教の冒頭で、義母の言動で「長生きは本当に恵みだろうか！」と思う事があったと申しました。しかし、長生きは恵みでした。神さまは、御言葉の奇跡を見せて下さいました。

義母は、一昨年10月、脳梗塞で倒れ左半身不随になりました。食べられなくなり痩せていきました。当時、私は信州教会協力牧師。礼拝が終わると母のもとに行き母の側で泊まるようになりました。夜眠れないのが辛く、夜な夜な話しをしました。召される一週間程前のある夜、かぼそい声で、しかしハッキリとこう言いました。「私はね、いつも一番だった。何でも出来ると思ってきた。でも今は何も出来ない・・・」。辛そうな切なそうな声でした。そして、「悪かった。弱い人の事が分からなかった。悪かった・・・」と。動けませんでしたが、主の前にこうべを垂れ悔い改めたと思いました。長寿の恵みでした。

本日の主の御言葉『罪なき者が石を投げよ』。この御言葉が最初に心を落した人々は年寄りだったという事。感謝です。歳を重ね自分の罪に気付く。あの十字架につけた人々、その張本人だと主の前に悟る悔い改めの時が残されていたのです。

何と幸いな事か。私たちの人生、希望をもって歩める。諦めなくて良い。主がよき時を残して下さっているのですから。

(記 市川和恵)